

労竹を寛大に取り扱ふのは、労竹組合合議を飯皿石の基礎の上に置くのにはないと思ふ。か左の理由によつて全  
國労竹の組合合議参加を容認してゐる。

一、労竹クラブの結成は猶ほ曰淺つた。そしてその結成まじはクラブ結成第一主義で行かねばならなかつた。その結成前に於て、当時日本海員組合と總同盟は意見を異にしてゐて、海員組合では全口労竹の幹部の考へ方は大体同じだから、参加したらよいと云ふのであつたが、我口は反共産主義の立場を明にしなければ、参加を承認するわけにいかないとした。かくて労竹組合主義の